京都工芸繊維大学（KIT）で英語を学ぶにあたって

1．KIT の英語プログラムの概要

国際的に活躍する高度で専門的な科学技術者を養成する KIT では，その基盤となる高い英語力を１・２回生のうちに培うための英語プログラム（通称「英語鍛え上げプログラム」）を実施しています。先端分野を担う科学技術者には，「世界共通語」とも言われる英語をマスターすることが必須で，日常会話はもちろん，専門領域の情報を自在にやりとりできる高度な英語運用能力が求められます。上回生になれば，あるいは，大学院に進めば，英語文献の読解，英語による論文執筆，国際学会での口頭発表，諸外国からの研究者や留学生との交流などのタスクをこなさなければなりません。そこで KIT では，通常の英語授業を通して，皆さんの英語学習への意欲を高め，読む・書く・聞く・話すの英語の４技能をトータルに伸ばしながら外部試験などにも対応できる安定した力がつくように全力でサポートしていきます。１年次には，４つの英語科目が必修科目として用意されています。その中で **e-learning や extensive reading（多読プログラム）の課題**も課され，また前期末には **TOEIC IP（大学主催，手続・受験料不要）の受験**も控えています。これらの課題の達成度やテストのスコアも１年次に履修すべき必修科目の成績に組み込まれますので，プログラムの趣旨をよく理解して，積極的に学習に取り組んでください。単位取得を後回しにせず，計画的に履修していきましょう。

2．KIT の英語教育科目

KIT では，(i) TOEIC 等の外部試験受験に向けた準備科目として Career English Basic，(ii)英語で行われる授業の受講に向けた準備科目として Academic English，さらに，(iii)専門科目を学び，研究を進める上で必要となる，英語による論文読解・執筆・プレゼンテーション・ディスカッション等に関する基礎的な力を養うための科目として Interactive English と English for Sciences and Humanities を開講しています。詳細は次の表を参照してください。

Interactive English A/B	・**A は１年次前期配当，B は１年次後期配当で，いずれも必修科目** ・口頭のインタラクションに重点を置き，多様な場面に自信を持って対応できるコミュニケーション能力を養うとともに，海外情勢や異文化についての理解を深める。 ・追加課題として extensive reading（多読プログラム）が課される。 ＊A/B とも，指定クラス制（各学生が指定されたクラスで受講する制度）。 ＊TOEIC スコア 800 点以上またはそれと同等のレベルの学生を対象とした高レベルクラス（ah）の受講希望者は授業日にクラスに行くこと。
Career English Basic	・**１年次前期配当の必修科目** ・将来の就職活動や大学院進学などを見すえ，TOEIC など社会的に認知された評価基準に耐えうる柔軟な英語運用能力を身につける。 ※院試や就職に向けて高得点を目指す学生には，さらに１年次後期配当実践教養科目の「TOEIC 対策講座 I」（選択科目）や，３回生以上が受講可能な当高年次配当科目の「TOEIC 対策講座 II」（選択科目）を履修することを勧める。 ・TOEIC の受験が義務付けられ，スコアが成績に加味される。 ※TOEIC730 レベル以上のスコアを取得した場合，申請すれば実践教養科目の「TOEIC 対策講座 I」（選択科目・２単位）が受講登録の有無にかかわらず「S」評価で認定される。また，860 レベル以上のスコアを取得した場合，申請すれば卒業認定に必要な全学共通科目のうちの２単位として「認定」される。 ・追加課題として e-learning が課される。

Academic English	・**１年次後期配当の必修科目** ・学術的な場面で英語を使うための基礎を固める。 ・追加課題として e-learning が課される。
English for Sciences and Humanities A/B	・**２年次以上配当の必修科目** ・学生がそれぞれの専門課程の科目を学び，研究を進める上で必要となる，英語による論文読解・執筆・プレゼンテーション・ディスカッション等に関する基礎的な力を養うことを目標とする。 ・追加課題として e-learning が課される。

●授業への出席について
KIT では，英語教育科目の取り決めとして，やむをえない事情がない限り，**４回以上欠席すると成績評価の対象にならない（受講資格を失う）**ことになっています。また「語学」という科目の性質上，受け身にならず積極的に学習活動に参加することがすべての受講生に求められます。積極的に授業に取り組んでいない場合や授業を妨げる行為があった場合には，欠席とみなされることがあります。

３．到達目標の目安

KIT の学生は，卒業までに，英語の必修科目（Career English Basic (１単位), Academic English (１単位), Interactive English A/B (各１単位), English for Sciences and Humanities A/B (各２単位)）の**８単位**を取得する必要があります。また，卒業研究に着手できるかが判定される３年次終了時点で，必修科目の取得が義務付けられている課程もあります。TOEIC（あるいは TOEFL，IELTS）等の外部テストを通して自分の英語力が海外や実社会の基準に照らしてどの程度なのかを確認しながら，実力や興味・関心等に沿って，専門領域の知識の獲得とその応用に必要とされる英語力を身につけていってください。下に TOEIC のスコアを基準とした目標設定の目安を示します。TOEFL，IELTS など他のテストについても同じことが言えますので，高い目標を設定して着実に学習を進めましょう！

↓	学んだ知識を実際のコニュニケーションで使えるレベルには達していない。TOEIC に特化した勉強をする前に，**文法・語彙などの基礎固め**をしよう。**「意味」を意識しながら，リスニングや音読を繰り返す**ことにより，訳し上げずに（そのままの語順で）内容を理解できるようになることが重要！
450 ↓	実生活で最低限のコミュニケーションができる（簡単な単語でゆっくり話してもらえれば，相手の言っていることが分かり，身近な話題であれば応答も可能な）レベル。**基礎力はあるはずなので，あとは勉強あるのみ**！ 語彙力アップと文法知識のブラッシュ・アップを図りながら，リスニング・リーディングの訓練を積もう。 １年次前期の Career English Basic 受講終了までに，630 レベルを突破することが理想。
630 ↓	日常会話の自然なスピードに対応できるレベル。このレベルに到達すれば，文法・語彙などを含むすべての領域でまずまずの実力はあるはず。**実戦的な問題集などを用いて，さらなるトレーニングを積もう**！ポイントは，単に問題を解くだけでなく，リスニング・リーディングとも問題文や選択肢の**細かいところまで十分に理解し，覚えるべき事項を確実に覚える**こと。 １・２年次後期配当の実践教養科目「TOEIC 対策講座 I」（選択科目），３年次以上配当の「TOEIC 対策講座Ⅱ」（選択科目）を活用して学部卒業までに 730 レベルを目指しましょう。

730 ↓	日常会話を越え，ニュースなどの英語にもなんとか対応できるレベル。スコアが 730 を超えると，仕事上でも最低限のコミュニケーションができるようになるので，多くの企業が新卒者にこのレベルの英語力を求めるようになっている（「TOEIC 730」は企業の人事担当者から見た選考分岐点の一つと言われる）。このレベルまでくると，スコア・アップは容易ではないが，TOEIC に特化した勉強に加え，**新聞・テレビ・インターネットなどを利用して日常的に英語を使う**ようにすれば，実力は確実に伸びる。 730 に到達後，半年から１年を目途に次のゴール（800）を目指そう！
800 ↓	多様な場面で適切なコミュニケーションができるレベル。理工系の学部生としては優秀なレベルだが，国際社会で自在に仕事や研究をするには不十分。多様なメディアを介して大量のインプットを受け取るとともに，アウトプットの機会をできる限り増やそう！ポイントは，**英語との接触を日常化**すること。 レベルが高くなるほど得点アップは難しく，学習を継続する力が試される。 **860 点以上を取ると，申請すれば全学共通科目合計２単位が追加認定される。**
860	語彙・文法を駆使して，円滑なコミュニケーションができるレベル。このレベルに達すると，学習の成果を目に見える形で測定することは難しい。英語を実際に使うことと学習の積み重ねで，地道にブラッシュ・アップを図るしかない。 大学時代にどこまでいけるか？ **ここから先は自分への挑戦**！

４．学習の進め方

外国語習得を促す主要因は，インプット（読んで，聴いて，内容を理解すること）です。それも大量のインプットを浴びなければ，外国語を使いこなせるようにはなりません。多読多聴をしながら内容を理解するというプロセスですが，その効果を左右するのは学習に投じる時間と集中力です。TOEIC や TOEFL 受験のための勉強も英語習得に有効ですし，大学院入試や就職にも役立ちます。常に「使う」ことを意識して継続的に英語学習を進めてください。

５．「KIT 英語学習サポートシステム」について

学生の自学自習を支援し，英語力向上を図るために，以下のような制度を設けています。積極的に利用して，学習効果を高めましょう！

(1) KIT 短期海外英語研修

本学ではこれまで，学生の英語力向上を目的とした短期海外英語研修プログラムを実施してきました。夏季休暇を利用したイギリスでの５週間にわたるプログラムと春期休暇を利用したオーストラリアでの５週間にわたるプログラムで，いずれのプログラムに関しても大学からの学資支援があります。これらの研修に参加して一定の成績を収めた学生には，本学の言語教育科目２単位が認定されます。
※なお，研修先は年度によって変更する場合があります。

(2) e-learning を用いた学習支援

コンピュータがあれば，どこでもオンラインで英語学習ができる Academic Express 3 を導入しています。1 年次配当の Career English Basic と Academic English，及び，2 年次配当の English for Sciences and Humanities では，このシステムを利用して毎週課題が出されます。Academic Express 3 には，この課題として出される教材以外にも「週刊！英語ドリル」や「TOEIC mini」などをはじめ，多様な教材が揃っています。これらもうまく利用して継続的・自主的に英語学習を進めましょう。
※Academic Express 3 には，情報基盤センターの ID と Password を用いて学内外からアクセス可能です。（URL：https://supereigo.campus.kit.ac.jp/student/main/login）

(3)英語教員のオフィスアワー

英語教育を担当する各教員がオフィスアワーを設け，学生からの質問や相談に応じています。受講科目の選択や授業の内容についてはもちろん，TOEIC・TOEFL・IELTS などの試験対策，短期・長期の留学など，英語学習に関する質問・相談を受け付けます。

●学期末の 7 月 23 日（木）には TOEIC IP（大学主催，手続・受験料不要）が行われます。前期必修科目 Career English Basic の単位取得にはこの受験が必須です。予定を必ず空けておくようにしてください。詳細は授業時や Moodle で別途通知します。